好いとお！福津

Readers Voice 読者の広場

読者の声を中心に、みんなと広報・マーケティング係で作る交流コーナーです。広報ふくつの感想はもちろん、市政へのご意見、ふるさと福津市への思いや日々の生活のこと、市内の出来事のリポートなどを掲載していければと考えています。たくさんの声をお寄せください。

広報12月号の感想

福津の人たちの不屈の精神に感動

いつも楽しく読ませてもらっています。今月号は「ふくつの精神」が満載でよかったです。（べーさん／西福間／37歳）

新型コロナウイルス感染症が日本中に大きな影響を及ぼした令和2年。福津市も例外ではなく、不安や焦り、気が滅入ってしまうような日々が続きました。12月号ではそのような中でも、前を向いてこの困難を乗り越えていこうとする人たちや助け合う人たちの姿などをお伝えしました。医療従事者の皆さんをはじめ、さまざまなことに取り組む全ての人を紹介することはできませんでしたが、市民の皆さんがこの特集を見て、それぞれの思いに触れることで「前を向いて」ほしいという願いを込めました。「With（ウィズ）コロナ」と呼ばれる時代となり、働き方や学び方、人との関わり方などさまざまなことが変化していく今、改めて「人と人のつながり」が大切になるのではないかと思います。

現場の人たちの話が子どもたちの力になる

まちの話題にあったハイドパーク経営者の花田さんの高校での授業の記事に感動しました。このような現場の人の授業は生徒たちの活力になると思います。（みかんママさん／日蒔野／38歳）

市内にある県立光陵高校では、生徒の進路決定の材料にするために仕事や職業について学ぶ学習を行っています。まちの話題では、その学習の一環で、花田正雄さんをはじめとした市商工会青年部の皆さんが行った出前授業を紹介しました。

現場の第一線で活躍する人たちの声を聞き、生徒の皆さんも刺激を受けたり、働くことの意義を学んだりすることができたのではないかと思います。この経験が糧となり、生徒の皆さんが将来、地域を支える人材として活躍してくれることを期待しています。

街角カメラリポート

このコーナーでは読者の皆さんから寄せられた、市内の出来事や旬の話題を写真とともにお届けします。

私たちは大和1区シニアクラブ福寿会です。現在21人で活動していて、定期的に集まり、健康づくりやカラオケ、レクリエーション活動などを行っています。

一昨年からは、JR福間駅の改札口前と、改札内の待合室にあるベンチの座布団作りを行っています。この活動は、会員の一人が「福間駅のベンチに座る人が少しでも暖かく過ごせるよう、みんなで座布団を作ってみないか」と提案したことがきっかけでした。

◀座布団が設置されたJR福間駅の改札口前のベンチ

みんなで材料を持ち寄って心を込めて作りました▶

一昨年はみんなで話しながら、楽しく作りましたが、昨年は新型コロナウイルスの影響で、これまで毎週行っていた活動ができず、連絡を取り合いながら、それぞれの自宅で座布団を作りました。10月からは月に2回集まることができるようになり、10月21日、福間駅の駅長へ今回で2回目となる座布団の寄贈を行いました。駅長からは「本当にありがとうございます」と感謝の言葉をもらい、私たちも、座布団に腰かけている人を見るたびに、やりがいを感じています。

高齢化が進む一方、どこのシニアクラブでも、会員が少なくなってきていることが課題です。私たちの会でも例外ではありません。大和1区に住む60歳以上の人に一人でも多く会へ参加してもらい、私たちと一緒に楽しく、知恵を出し合い、時には支え合いながら活動できることを願っています。（大和1区シニアクラブ福寿会）

少しでも日常が戻ってくるように

特集はとても良かったと思います。昨年はコロナの1年でした。せめて今年は子どもたちにとって、当たり前の日常が戻ってきますように。（Worldさん／通り堂／64歳）

昨年はコロナ禍により、市内の小・中学校などがさまざまな影響を受けました。これまでの日常が大きく変化することで、子どもたちも強いストレスを感じる1年になったのではないか思うと胸が痛みます。今年は少しでも新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、市内に子どもたちの笑顔がたくさんあふれることを願っています。

お便り・投稿大募集

「好いとお！福津」は皆さんと一緒に作るページです。広報紙の感想などがあれば17ページの市まちづくり推進室宛ての投稿はがきやメールなどで受け付けています。街角カメラリポートは、記事を写真と一緒に市まちづくり推進室宛てに郵送またはメールで投稿してください。投稿記事は500文字程度で作成し、写真は郵送の場合は印刷したものを、メールの場合は2MB以上のJPEGデータを送付してください。ただし、送信データが10MBを超えると受信できないことがありますのでご注意ください。

お送りいただいた内容は、紙面の都合で加筆、修正、短縮する場合があります。また、応募多数の場合は選考しますので、掲載できないこともあります。原稿や写真は返却しませんのでご了承ください。匿名を希望する場合は、その旨を明記してください。たくさんの声をお待ちしています。

受付、問い合わせ　市まちづくり推進室☎43・8113、メール　info@city.fukutsu.lg.jp

男女（めざそう）がともに歩むまち

性別に関わらず、一人一人が輝ける社会を目指す福津市。このコーナーでは、市や市民の「男女がともに歩む」取り組みを紹介します。

▲カードを提示し、お互いの意見を発言し合う参加者の皆さん

男女共同参画人材育成セミナー クロスロードゲームを開催

「クロスロードゲームで楽しく考えよう、男女共同参画」を10月30日に開催しました。講師にはNPO法人福岡ジェンダー研究所の荒武勢津子さんを招き、介護や子育て、職場などの身近な問題をテーマに、男女共同参画に関心のある人や、地域活動を積極的に推進したいと考えている人など13人が参加しました。

クロスロードゲームとは、阪神淡路大震災の対応に当たった行政職員の体験に基づいた課題を、カードゲーム形式にした防災教材です。課題の一例として「20代男性社員が、ノー残業デーに保育所へ娘の迎えに行く担当になっている。帰り支度をしていると上司から『緊急トラブルが起きたので残業してほしい』と言われた。妻は大事な会議の最中で、あなたは上司の依頼を『引き受ける』か『引き受けない』か」どちらかを選択します。各グループの机に置かれた「YES」「NO」のカードをそれぞれが示して、なぜ、このように判断したのか理由を説明しつつ、自らの意見を発言していきました。

どのグループも、引き受けない「NO」が多数を占めましたが「保育所への娘の迎えは別の人に行かせ、トラブルに対応するために上司の依頼を引き受ける」など、それぞれの意見を交わしていました。

このように、他者との対話は多様な価値観を共有し、新たな可能性を発見することができます。正解のない問題に対し、1つの価値観に縛られず、当事者意識を持ち、相互理解を深めることができました。市ではこのようなセミナーを通じて、一人一人の違いが認められ、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めていきます。

問い合わせ　市男女共同参画推進室☎43・8116